

ラオスとつくば市の魅力を伝え隊！（つくば市立上郷小学校 白澤 拓也）

氏名	白澤拓也	学校名	茨城県 つくば市立上郷小学校
担当教科等	算数・理科・総合等	対象学年(人数)	3年 1組(22名)
実践年月日もしくは期間(時数)	R5年9月～12月(6時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域:総合的な学習の時間	
2. 単元(活動)名:ラオスとつくば市の魅力を伝え隊！	
3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ:「ラオスの文化や特色について考えよう。」 単元目標:他国の文化や特色について、興味を持つことができるようにする。 関連する学習指導要領上の目標: (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析をして、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。	
4. 単元の評価規準	①知識及び技能 他国の文化や特色について興味をもち、進んで課題を追究しようとしている。
	②思考力、判断力、表現力等 インターネット、図書館、インタビューなどの様々なメディアの活用と体験学習を通して、他国の文化や伝統について理解を深め、自国の良さを考えようとしている。
	③学びに向かう力、人間性等 他国や自分の住んでいる地域の問題を作り、他学年や他地域に発信することで、地域社会の一員としての自覚をもつことができるようにする。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童／生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 本学年の児童は、総合的な学習の時間につくば市の特色などについて調べ、他市、他県の小学生に発信する学習活動を行ってきた。活動を通して、児童の視野は少しずつ広がっていき、他国の人にも、自分たちの地域の魅力を紹介したいという想いをもちた。 そこで、ラオスの学生に自分たちの住んでいる地域の特色を紹介し、ラオスの特色を尋ねる場を設定した。 本単元では、ラオスの特色を捉える際に、つくば市と比較して考えることで、両地域の特色をより深く捉えられることをねらいとしている。 【単元の意義】 本単元では、総合的な学習の時間の「発信！つくば市の魅力」の単元を基盤とし、つくば市の魅力や他国の文化について考え、他者に発表することで、地球市民の一員としての自覚を育む。 【児童／生徒観】 本学級の児童は、多数の地域との交流授業や地域人財を活用した授業を通して、視野を広げることができている。しかし、日本以外の国については、考えることがあまりできていない。このことから、実際にラオスの大学生と交流することで、多様な文化や国民性について触れることが大切であると考えている。 【指導観】 これらの活動を通して「地球市民の一員としての意識」を高めることが重要となる。その際に、自分の住んでいる地域と他国を比較する活動を行うことで、視野を広げることができるようにする。第6学年の「ストップ！地球温暖化」へと繋がる単元となるため、丁寧に取り扱う。

6. 単元計画(全6時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	ラオスってどんな国？	<p>他国について、学級全体の認識具合を視覚化することで、他国へ視野を向けられるようにする。</p> <p>写真を通して、ラオスの文化や国民性を感じることができるようになる。</p> <p>自分たちの考えに対する意見を書き込んでもらうことで、多様な考え方に触れることができるようになる。</p> <p>日本と違う価値観や文化があることに気がつけるようになる。</p>	<p>○アイスブレイクとして、「部屋の四隅」を行う。</p> <p>・1問目 日本以外の国をいくつ知っていますか。 「51以上」「21～50」「6～20」「1～5」</p> <p>・2問目 ラオスという国を知っていますか。 「知っている」「少しだけ知っている」「あまり知らない」「まったく知らない」</p> <p>○ラオスで撮影した写真を使い、フォトランゲージを行う。</p> <p>・ネガティブな捉え方にならないように、写真の選択には留意する。</p> <p>○担当した写真について考えたことを、ギャラリー形式で共有する。</p> <p>○学習をふりかえる。</p> <p>・次の時間に、ラオスの大学生に、オンラインでインタビューすることを伝える。</p>	<p>部屋の四隅 SDGs CLUB</p> <p>フォトランゲージ ラオスで撮影した写真</p>
2	ラオスのみりょくについて、インタビューをしよう。	<p>家庭学習でラオスについて調べることで、意欲を高める。</p> <p>知りたいことを明確にすることで、相手意識を高める。</p> <p>ラオスの文化や国民性を感じられるようにする。</p> <p>実際にやり取りをすることで、本単元の学びをより深めることができるようにする。</p>	<p>○事前に考えてきた、ラオスの大学生への質問内容を確認する。(Padlet)</p> <p>・インターネットで調べても分からないことを質問するようにする。</p> <p>○ラオスの大学生からラオスについての紹介を聞く。(zoom)</p> <p>○事前に考えてきた質問をする。</p>	 <p>【ラオスの紹介に興味深く聞いている様子】</p>
3	ラオスのみりょくってどんなところ？	<p>情報や考えをまとめ、共有することで、多角的に物事を捉えられるようにする。</p>	<p>○ラオスについて紹介してもらったことをそれぞれまとめる。(Canva)</p> <p>○まとめた内容をワールドカフェ形式で共有する。</p>	
4	つくば市のみりょくを発信しよう。	<p>ラオスの学生に発信することを意識することで、内容を検討する力を育む。</p> <p>感想をもらうことで、学習内容を客観的にふりかえることができるようになる。</p>	 <p>○つくば市の魅力を調べ、まとめる。 →「発信！つくばのみりょく！」(8時間)</p> <p>○まとめた内容を、ラオスの大学生に発信する。</p> <p>【つくば市の魅力を発表している様子】</p>	

5	ラオスとつくば市のいいところって？	両国の魅力を比較することで、国の特徴を多角的に捉えることができるようにする。	○ラオスとつくば市の魅力について、ベン図を用いて比較し、整理する。 ・どちらが良いのかを決めさせるのではなく、両方のよいところを探し出すように声をかける。	
6	ラオスとつくば市のみりよくクイズを作ろう。	問題を作成することで、ここまでの学習内容を客観的にふりかえることができるようにする。	○それぞれの魅力を他者に伝えるための問題を作成する。(Kahoot!) ・解く相手がマイナスなイメージをもたないように配慮しながら作成させる。	
7 本時	他の学年にラオスとつくば市をしようかいしよう!	出題後に解説をすることで、学びをより深めることができるようにする。 調べ学習を行い、学びをより深められるようにする。 解説をしたり、質問の仕方を考えたりして、グループの一員としての役割を果たすことで、キャリア設計能力を高めるようにする。	○5年生に、クイズを出す。(Kahoot!) ・クイズの正解発表後は、短い解説ができるようにする。 ・気になったことや疑問に思ったことを、クイズ終了時に共同で調べ学習を行うようにする。 ・ラオスの大学生とオンライン会議を繋いでおき、分からないことや気になることはその都度、質問することができるようにしておく。 ○学習をふりかえる。 ・学んだことを Padlet に書き込む。	
7. 本時の展開(7時間目) 本時のねらい: 多様な人々とよき関係をつくり、まわりの人と積極的に関わろうとしている。				
過程 時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)		資料 (教材)
導入 (5)	学習の流れを確認する。 アイスブレイクを行う。 部屋の四隅 1問目 緊張していますか。 「はい」 「少しだけ緊張している」 「あまり緊張していない」 「いいえ」 2問目 ラオスという国を知っていますか。 「知っている」 「少しだけ知っている」 「あまり知らない」 「まったく知らない」	ホワイトボードに本時の流れを掲示することで、常に視覚的に確認することができるようにする。 参観者の教員も授業に参加することで、児童がより多角的に考えることができるようにする。 アイスブレイクを行うことで、和やかな雰囲気での授業を行うことができるようにする。		(Kahoot!)
展開 (20)	5年生に、ラオスやつくば市についての問題を出題する。	クイズの正解発表後は、回答の解説を短い述べるようにする。 ラオスの大学生とオンライン会議を繋いでおき、分からないことや気になることはその都度、質問できるようにしておく。 【ラオスの学生に質問できる場の設定】		(zoom)
(10)		疑問や調べたことを Canva に書き込んでいくことで、学習内容を共有することができるようにする。 調べても分からないことは、ラオスの大学生に聞		(Canva)



	<p>解答後、気になったことや分からなかったことを5年生と協働して調べる。</p>	<p>いてもよいことを確認する。</p> <p>【協働して調べ学習をしている様子】</p> 	
<p>【まとめ】 (10)</p>	<p>学習をふりかえる。 学んだことを Padlet に入力する。</p>	<p>学習内容を Padlet でふりかえることで、多面的にふりかえることができるようにする。</p>	<p>(Padlet)</p>

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・多様な人々とよき関係をつくろうとしているかを、5年生や参観者との関わりを観察して確認する。
- ・まわりの人と積極的に関わろうとしているかを、調べ学習の内容を確認して評価する。

9. 学習方法及び外部との連携

海外研修時に、日本の文化を学ぶ学校に通う学生と親交を深め、帰国後に交流をしたい旨を伝え、連絡先を交換しておくことで、帰国後、スムーズに連絡をとることができた。インターネット上の情報だけでなく、実際にラオスに住んでいる大学生から、話を聞く機会を設けることで、実感をもちながら学習活動に取り組むことができていた。また、1度の交流だけではなく、何度も行うことで、子どもたちは、より身近に感じることができている様子が見られた。

子どもたちの交流が活発になるように、机と椅子を使わずに交流する場を設けた。このことで、教員と3年生、5年生が対等な関係で、同じ協働者として活発に活動することができていた。

話し合いの技法として、「ワールドカフェ」「フォトランゲージ」などを用いることで、多様な考えに触れ、自分の考えを深めることや、問題を発見する力を育むことができた。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・他学年と交流することで、他学年にも国際教育を波及させた。
- ・学校内に SDGs 掲示板や SDGs 体験コーナーを設けたり、SDGs に関する掲示物を各所に掲示したりすることで、SDGs について各々理解を深めることができるようにした。
- ・ラオスで撮影した写真を校内2か所のモニターに常時掲示したり、ラオスに関する資料等を掲示したりすることで、他国への興味関心を高めることができるようにした。



【ラオスで手に入れた教材等の掲示】



【ラオスを紹介するコーナー】

【自己評価】

11. 苦勞した点	本学級の児童の実態として、発達段階も考慮した上で、自国以外の国についての認識が乏しく、視野が狭いことが課題であった。そこで、外部人財を活用した授業を多く設けた。その際、日程の調整であったり、内容をすり合わせたりする作業が多く、苦勞した。また、ラオスの学生と交流する際には、児童と意思疎通が取りづらく、想定していた活動とは少し変更することがあり、臨機応変に対応することに苦勞した。
12. 改善点	本単元をはじめとし、外部人財を活用した授業を多く展開したが、この実践を継続していく必要があると考える。そのために、授業準備や外部とのやり取りを同僚と協働して取り組むことで、校内に仕組みを作っていきたい。また、今回の教師海外研修での繋がりを大切に、他の学校でも実践を恒久的に続けていきたい。
13. 成果が出た点	Zoom を用いて、実際にラオスの方とやり取りをする活動を通して、身近に感じることができていた。生活の中でも、「ラオスならどうか。」などと、自国以外の国を比べるような会話が聞こえてくることから、視野が広がったことが感じられた。また、5年生に学習内容を発信したことで、5年生がラオスに興味をもち、自主学習でラオスの抱える課題について調べる様子が見られた。このことから、SDGs と関連づけながら、自分たちの地域の課題について、考えていたため、学習内容が波及していると感じた。

14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

交流後に、関心をもった5年生がラオスについて自主学習で調べてきた内容

2020年10月(金) ラオスの言葉と意

2020年のデータは

- ・人口の約20%が栄養不良で5歳未満の子どもの33%が栄養不良に悩んでいる
- ・1人1日平均消費カロリーは1900kcal
- ・小学校を退学する子ども、毎年1万人
- ・言語能力を測定するテストで、単語を1つも読めない子どもは2年生30%、文章を読むことも意味がわからない子どもは57%
- ・最終学年まで教育を受けられない小学校20%
- ・緊急水しせつトイレの両方がある学校は66%
- ・20〜49歳の女性のうち37%が18歳未満の妊娠

感想

ラオスの人たちが抱えている問題がよく分かった。何か手助けをしてあげたいと思った。

2020年10月(金) ラオスの課題

ぼくはラオスの課題や問題を調べました

1つ目

1)子どもの教育

ラオスには貧困で約125万人(183万人)が生活している人で52%で半分以上お金に困窮している。そのために学校に通えずに家の手伝いをさせられている子どももいる。学校に通えない子どもは約125万人、トイレの両方がある学校が66%しかない。もし学校に通えなくても小学6年生まで通えない小学校が20%あり、小学校を退学する子どもは毎年1万人以上いる。

2つ目

2)治安

ラオスは熱帯地域で雨季(5月〜10月)と乾季(11月〜4月)があり4月に最も暑い気温になり、5月は最も涼しくなり、11月は最も寒い気温になる。雨期は、かぜやインフルエンザの病気が流行しやすい。

5歳未満の死亡率は1000人あたり46人です。

おもな原因は貧困にあります。

ラオス

<ラオスの人々は何んな問題に直面しているか？>

ラオスは都市部、農村部、民族間における格差が大きい。また教育、医療などの社会サービスの質が問題となっており、行方不明の児童の増加、人権の侵害も課題です。

<ラオスの開発課題>

産業の多角化、中小企業の発展、産業人材の育成による雇用創出、あまの川、かんきょう、文化保全に配慮した観光地、都市開発を促進した観光地、ラオスにとって最も重要な課題となる。

日本は、これらの課題に果敢と取り組むラオスに対して、いかに協力していくか、関心を表明する。

<ラオス教育問題とは？>

ラオスは不安定な学校による高学年の低下、学習困難による課題がある。そのほかにも民族間格差などは課題が大きい。

(使用言語による学習の差)

・ラオス語を母語とするラオス人の教育は、日本語を母語とする日本人と比べて、日本語の学習が難しい。

(教育の不足)

・ラオスは教育の不足も課題。教育は貧困が原因で、どう改善するか。

ラオスの課題

貧困率(1日1.25ドル以下で生活する人口)	高地33% 低地19%
いけずする原因は、日本のい多いが、支援の団体でいれんししています。	
5歳未満死亡率: 1000人あたり46人	
人口の約20%が栄養不良で5歳未満の子どもの33%が栄養不良	
小学校を退学する子ども、毎日1万人	
言語能力を測定するテストで単語を1つも読めない小学生30%、文章を読んでも意味が理解できない小学生57%	
最終学年まで教育を受けられない小学校20%	

15. 授業者による自由記述	<p>JICA 教師海外研修に参加し、多種多様な先生方や企業の方と関わっていく中で、国際教育への知見が広がり、自分自身の価値観や教育観に関して、改めて考え直すことができた。また、研修で学んだことを授業や学校内の掲示物に落とし込むことで、さらに学びを深めることができ、教職員や児童への周知に繋げることができた。</p> <p>今回は、たくさんの方の協力の元、国際教育をつくばスタイル科の単元に取り組み、授業を行ったが、他教科や他学年でも、国際教育を関連付けていけるように今後も試行錯誤していきたい。そして、若手教員からベテラン教員、ICT 機器の使用が得意な教員、苦手な教員、すべての人が、気軽に取り組むことができるような授業作りを心がけたい。</p>
----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考資料:

SDGs カード活用した授業実践事例集 編 茨城県教育研修センター (2022 年 3 月発行)

総合的な学習(探究)の時間のアイデア集 編 独立行政法人 国際協力機構 東京センター

「多様な社会」を考える 学びのプログラム集 編 独立行政法人 国際協力機構 中国センター(JICA 中国)